

2021年4月21日
SOMPOホールディングス株式会社

堺市でICTを活用したデジタルリテラシー向上と ケアラー支援モデルの実証開始 ～シニアの”Well-being”実現を目指して～

SOMPOホールディングス株式会社（グループCEO執行役社長：櫻田 謙悟、以下「SOMPOホールディングス」）は、地域のスマートシティへの取組みを後押しするため、堺市において、シニア向けのデジタルリテラシー向上モデルプログラムと、在宅で家族を介護するケアラー※1を支援する新しい在宅介護モデルプログラムに関する実証を6月に開始します。

1. 背景・目的

急激な人口減少と高齢化が進展する日本において、生産年齢人口の減少を補完する取組みが官民を挙げて進められています。

政府が目指す新たな社会 Society5.0（超スマート社会）※2においても住民が取り残されない仕組みや誰もが安心できる社会保障制度の構築が重要とされており「多様な就労・社会参加」「健康寿命の延伸」「医療・福祉サービス改革」「給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保」の4つを政策の柱として、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現を目指しています。

「健康寿命の延伸」には、シニアの“Well-being”※3の実現が不可欠です。

SOMPOホールディングスは、保険分野、生活習慣病予防・メンタルヘルスおよび健康経営関連分野、介護および認知症予防分野を通じて「安心・安全・健康」に資するソリューションを提供しています。

堺市は、ICT（情報通信技術）等の先端技術を活用し様々な地域課題の解決を図るとともに、市民の利便性と生活の質の向上をめざす「スマートシティ」の取組みを推進しています。堺市の中で最も人口の高齢化が進む南区では、介護等を取り巻く地域課題の解決に取り組むため、「スマート区役所」の推進を掲げ、ICT活用により安全・安心で高機能な市民サービスを提供することを目指しています。

このたびSOMPOホールディングスは、堺市の「スマートシティ」の取組みを後押しすることはシニアの”Well-being”の実現に繋がると考え、ICT活用が苦手なシニア向けにデジタルデバイス解消を支援する体験型プログラムと新しい在宅介護モデル構築に向けた2種類の実証を6月に開始します。本実証は堺市およびみずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社が共催し、SOMPOホールディングスがコーディネートします。

2. 実証の概要

（1）世界を広げるデジタル活用支援講座（デジタルデバイス解消プログラム）

総務省の令和元年通信利用動向調査によると、世帯のスマートフォン保有割合は年々上昇しているものの、年齢階層別では、60代が約65%、70代が約34%となっています。スマートシティの取組みや技術革新が進展していくと、デジタルを活用した便利なサービスが創出されることが予想されますが、スマートフォンやタブレット等のデジタルデバイスに苦手意識のあるシニアは、便利なサービスを享受できないことが想定されます。

SOMPOホールディングスは、スマート化が進む社会においてもデジタルを活用しシニアが自分らしく豊かに生きる社会の実現を目的として、シニアに対して視認性の高いタブレットを活用した体験型のプログラムを6月から堺市の南区役所で開催します。1コマ45分で全3回（週

1回)の講座を通じて、音声検索や画像検索を学び、デジタルデバイスによって世界が広がる体験をしていただき、「面白いからもっとやりたい」「日常で活かそう」という気持ちを喚起します。

(2) ケアラーズ(在宅介護者)サロン(ICT活用による家族介護の支援プログラム)

SOMPOホールディングスは、全国で400万人以上と推測される在宅で介護をするケアラーの負担軽減と要介護者に対するケアの品質を高めることを目的に、ケアラー自身が参加できるサロン運営の実証を行います。本実証を通じ、ケアラーおよび要介護者本人を起点とした地域でのケアラー支援モデルの将来的な実現を目指します。

ケアラーズサロンとは、地域のケアラーの方々が訪れ、介護知識・ケアの技術に加えて、在宅介護を負担にしないマインドセットや、在宅介護の生活の中でスマホなどのデジタルツールの便利な使い方を学べる場で、オンラインでも参加可能です。また、近隣のケアラー同士がサロンに参加することで、地域での繋がりが生まれることも期待できます。今回の実証では、ケアラーが抱える「情報不足」、「孤立」や「不安」について、ICTを活用しながら解決する場としてサロンの効果を検証します。サロンは2021年6月から2か月間で1コマ2時間計8回(週1回・各回とも1回から参加可能)のワークショップ型で、堺市の南区役所で開催します。

3. 今後について

SOMPOホールディングスは、地域のスマートシティの実現を後押しし、シニアの”Well-being”に資する取組みを通じて、さまざまな社会的課題のソリューションを提供していきます。今後も、超スマート社会において、デジタルを活用し、人々が自分らしく豊かに生きることができるスマートコミュニティの実現に取り組んでいきます。

※1 ケアラーとは、介護や看病、療育が必要な家族や近親者を無償でサポートする方を指します。

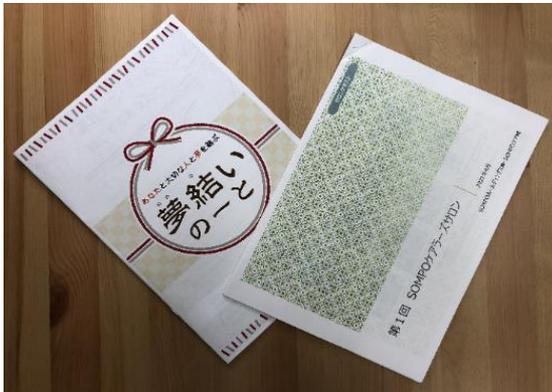
※2 Society 5.0とは、「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)」(内閣府)と定義されています。

※3 “Well-being”とは、身体的・精神的・社会的にも満たされた状態(WHO定義)を指します。

以上

【参考】各実証の概要について

○ケアラーズ（在宅介護者）サロンでのテキスト例



○世界を広げるデジタル活用支援講座（デジタルディバイド解消プログラム）の概要

インターネットで暮らしを便利に。 **すごい検索 Q**
世界を広げるデジタル活用支援講座



- iPadやPC等が使えないため、世の中で便利なサービスがあっても使えない。
- サービスのデジタル化が進化しても、アナログのサービスしか使うことができない。





- デジタルツールを使うことで、新たなコミュニティを検索することができるようになった。
- デジタルツールをもっと活用し、友人やコミュニティとつながりたいと思うようになった。



講座概要		回	テーマ	内容
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルデバイスの利用動機が必ずしもないシニアを対象に、デジタル活用によって、世界が広がる体験をしてもらうことで、受講者の「もっとやってみたい」という気持ちを喚起。 ・デジタルデバイスに対するアレルギーや苦手意識を緩和し、利用意欲を促進する。 	0	タブレット	タブレットに電源を入れる、充電する、タップやフリック、ピンチ等の初歩的な操作を学ぶ（希望者のみ）。
講座の特長	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者一人ひとりの心が動く体験を起点にアプローチ。 ・直感的に操作ができる「音声検索」「画像検索」を利用することで、「これならできそう」「日常で活かせそう」という気持ちを醸成。 	1	音声検索	音声検索を学び、「自身の思い出の場所」をGoogleマップで音声検索する。受講者同士で対話をしながら、タブレットに話しかけることで検索ができることを体験。
対象者	60歳～80歳の高齢者（要介護者を除く）	2	画像検索	写真撮影と画像検索の方法を学び、会場にあるものをタブレットを使って画像検索する。タブレットをかざすことで身の回りのことを調べることを体験。
所要時間	1コマ45分、全3コマ（週1回）		課題	日常生活で気になったことを音声検索する。
使用ツール	アンドロイドタブレット（主にGoogleアプリ、Googleマップを利用）、ワークシート	3	課題共有	散歩をしながら気になった花や草木、お店や建物等にタブレットをかざし、画像検索する。
実施形式	集合型（机をスクール形式にして実施）			課題をグループで共有し、撮ってきた写真と検索して分かった情報を話すなかで、デジタル機器を用いて視野を広げることの面白さや楽しさを、人とのつながり、コミュニケーションを通じて体感。
参加人数	最大30名/回			
体制	講師1名、サポーター若干名			